

懸川 宿の名なり、佐野郡のうちなり、此所の名物にて、葛布と云ものを商なり、

これぞこの里のならひと門ごとに葛てふ布を懸河のしゆく

釘の浦 懸川より行程五里ばかり東南のかたにあたりて、海邊なり、相良サカと云所、湊あり、釘の浦、

大礪タイキの湊と云て、舟入也、此邊を專釘の浦と云也、當浦よりかぢ和布と云薄草名物にて出る也、

所の人の云ならはせる歌に、

釘の浦うちくる浪の音するは沖のかち和布のしはぎ成らん

佐夜中山 白坂の宿より金谷の宿へ越る中間也、左右ともに大木の松立こみたり、西行法師の

うたに、

年たけてまたこゆべきと思ひきや命なりけり佐夜の中山

ふみまよふ峯のかけはしと絶して雲に路とふさよの中山

菊川 佐夜山東の麓なり、新坂の宿より東の海道なり、承久の合戦のとき、院宣を書し谷により、

光親公關東へめしとられ下り給ひし時、昔南陽縣の菊水、下流を汲てよはひをのぶる、今東海

道の菊川、西岸に宿て命終と、辭世のことばを作りて、誅せられ給ひしと云、此所也、歌に、

わすれめやかやが軒端に雨もりて袖引かぬる菊川の宿

大井川 此川は駿河遠江の堺にして、金谷の宿と島田の宿との中間を、北より南へ流出るなり、

川原のうち一里あり、海道一番の大河なり、元暦元年の比、鴨長明鎌倉に下りける時、この川を

過るとて、

日數ふる旅のあはれは大井川わたらぬ水もふかき色かな

〔延喜式二十兵部八〕諸國健兒略○中 遠江國六十六人略○中

諸國器仗略○中 遠江國甲四領五、乙刀七口、丙弓五十張、丁征箭五十具、戊胡篋五十具、